

第 1 問 答案用紙< 1 > (監 査 論)

評 点

問題 1

日常的な取引や会計記録は、多くがシステム化・ルーティン化されてきた。その結果、財務諸表の重要な虚偽の表示は、経営者レベルでの不正や、会計方針の適用等に関する経営者の関与等から生ずる可能性が相対的に高くなった。この経営者による関与は、経営者の経営姿勢、内部統制の重要な欠陥等の内部的な要因と、企業環境の変化や業界慣行等の外部的な要因、あるいは両方の要因が複合することでもたらされる場合が多い。

これに対し、監査人の判断は、財務諸表の個々の項目に集中する傾向があり、経営者の関与による重要な虚偽の表示を看過するおそれが大きい。したがって、監査人には、リスク評価の対象を広げ、企業及び企業環境を十分に理解することが求められている。

問題 2

問 1

	識別すべき事業上のリスク (財務諸表全体レベル)	生じる可能性のある虚偽の表示 (財務諸表項目レベル)
例	株式交換による企業買収に頼った業容拡大	株価を高めるための仕入債務の過小計上
①	著しい技術革新	棚卸資産や生産設備の陳腐化を認識しないという、資産の過大計上
②	厳しい受注競争	裏リベート等の支出が行われるという、費用の未計上
③	売上代金の回収期間の長期化	滞留債権を認識しないという、費用の未計上
④	輸出売上増加とヘッジ取引	ヘッジ会計の不適切な適用による、損失計上の先送り
⑤	利益額の達成に係る財務制限条項	滞留債権を認識しないという、貸倒引当金の過少計上

第1問 答案用紙<2> (監査論)

問2

監査人は、内部統制を考慮せずに、①リスクの性質、②そのリスクにより複数の虚偽の表示につながる可能性等、③リスクの発生可能性の程度を検討して、特別な検討を必要とするリスクかどうかを判断する。

「株式交換による大型の企業買収」それ自体が、金額的・質的に通常の取引とは異なる重要な非定型的取引であり、会計上の見積り等の判断を多く含み、かつ複雑な取引である。そして、A社が属する業界の状況は競争が厳しく今後の見通しは不確実であり、輸出取引の増加に伴う為替リスクも増加している。そのような状況下で、株式交換に備えて株価を高めるためや、財務制限条項による制約を避けるために、財務諸表の全般にわたり多くの虚偽の表示が発生する可能性が高いことから、監査責任者は、特別な検討を必要とするリスクが存在すると判断した。